

アトリエ 琉游舎 だより 209号

アトリエ琉游舎 ryuyusha.com/琉游舎for healing <https://toi101izuru.wixsite.com/mysite-3>

2025年7月16日発行

有縁無縁の精霊を思い感謝する日

お盆施餓鬼法要

8月10日（日）10時半から

●お盆は祖先の霊を供養する行事です。この期間には祖先の霊が子孫や家族の元に帰って来るとされ、盆踊り、精霊流し、迎え火、送り火などの様々な行事が営まれます。日本人 古来の祖先への感謝と供養の気持ちが仏教の考えと融合し今も生活の中に定着しています。

●施餓鬼会は貪り苦しむ餓鬼に対し飲食を施し、先祖代々や広く無縁の諸精霊を供養する法要です。自分の命はすべての生命と繋がっていることを自覚し、自らの欲や貧りを反省するとともに生きとし生けるものすべてに感謝し思いを巡らす大切な法要です。

●琉游舎ではお盆と施餓鬼会を融合して「お盆施餓鬼法要」を行います。有縁（親や祖先）の精霊だけではなく、有縁・無縁を問わないすべての精霊への供養と回向の法要です。

●一年に一回、自分の近い故人や祖先に思いをめぐらし感謝し、また永遠の過去から永遠の未来までの、有縁無縁の精霊を思い感謝し供養する日にいたします。また受難、殉難、遭難、自然災害、人為災害、戦争、病没、公私問わず、有史以来亡くなられたすべての方へ供養・回向し、私達の安寧と生きとし生けるものの平和を祈念いたしたいと思います。

●ただ祈念すれば何事も叶う訳ではありません。大切なことは神仏にお願いすることではなく、私たちが「願い、誓い、行う」ことです。家内安全息災延命などを願い、有無両縁の精霊の前で願いを誓い、日々の生活の中で願いのままに行うことが、私たちが法要を行う 真の意味であり目的です。

7月・8月スケジュール

			木	金	土	日
			17	18	19	20
火	水					
21	22 読書会 13時半から	23	24	25	26	27
28	29	30	31	8月1日	2	3 写経会はお休み
4	5	6	7	8	9	10 お盆施餓鬼法要 10時半から
11	12 読書会 13時半から	13	14	15	16	17

読書会

7/22（火）

8/12（火）

13時半

写経会

8月はお休み

空梅雨、猛暑が相変わらず続いています。ここコリーナでは日中は人もまばら、散歩している人も草刈りしている人もほとんど見かけません。蝉が鳴くには7月初旬は早すぎるようです。鳥も朝の涼しい間は元気に囀っていますが、日中はなりを潜めています。暑さが苦手な犬は散歩が早朝や日が暮れてからのようです。野生の生き物たちも日陰で体力を温存しているのでしょう。猛暑の日中、ここは静けさの中に沈んでいます。

6月末にベトナムの中部、ホイアン、ダナンを4日間旅行してきました。緯度は北緯16度、コリーナは36度なので相当の暑さを覚悟していましたが、毎日ほぼ似たような暑さ。朝は湿度が高い曇り空なのですが、8時過ぎくらいから雲の合間から強い日差しが差し込んできます。湿度は高いままなので日陰が欲しくなります。そうこうする内に雷の音が聞こえ、黒い雲が山の方から湧き上がり午後になるとスコールとなることもあります。そのまま降らずに蒸し暑い夜に突入していく日もあります。気温は33度前後、雨が降った後は少し過しやすくなりますが、日差しは日本より強いので、日中はあのバイタリティ溢れるバイクの洪水は朝晩に比べて大分少なくなります。聞くとところによると学校は7時から始まり、昼時に一度帰宅して食事や昼寝の後また学校に戻るようです。仕事も同じようなパターンで、朝早くに仕事、暑い日中は休憩そしてまた三時頃から夕方まで働き、その後街に繰り出すようです。暗くなってからも街は人で溢れかえっていました。

そんなベトナムから帰国した早朝の成田も湿度の高い曇り空。蒸し暑いままに次第に太陽が差し込み、午後になると雷とにわか雨、ベトナムと全く変わらない1日。異なることはバイクの洪水とワンと鳴くイヌガエルの存在くらい。ベトナムレストランで聞いた「ワンワン」の声に、思わずイヌが入ってきたようですよとガイドさんに言ったところ、それはカエルですとの応え。所変わればカエルの鳴き声も変わるものと驚きました。コリーナではモーと鳴くウシガエルの鳴き声が今は盛りです。もはや日本は亜熱帯気候です。

これまで何度か訪れたベトナムは、北のハノイと南のホーチミン(サイゴン)つまりソ連とアメリカの影響力によって南北に分断されたベトナムの首都でした。そこでは戦争の傷跡が分らないくらいに復興し、活力に溢れ、自信に満ちた人々の姿を見ることができました。今回はその二つの勢力が激突した中部です。子供の頃に聞いたことのあるフエの虐殺やテト攻勢の舞台となった地域です。そこも南や北と同じように表面的には戦争の傷跡は人々には見られません。ただ山の中の遺跡がベトコンの武器貯蔵庫や隠れ家になっていたため、米軍の爆撃で破壊された跡がわずかに名残を感じさせるだけです。ところがそんな遺跡を説明するガイドのちょっとした言葉尻に聞こえる、戦争の痕跡を私は見逃すことができませんでした。具体的には申し上げられませんが、未だに戦争の記憶が残り、それを語ることが彼の立場を危うくするであろうことが、平和ぼけした私にも感じるすることができました。彼は恐らくベトナム戦後の生まれでしょうから、自分が体験したことではなく、親や地域社会で語り継がれたことが、彼の今に大きく影響していることが痛いほどよく分かります。内戦、代理戦争、同じ民族同士の虐殺の事実が、未だに記憶として繋がれていかなければならない現実が、表面的な活力の中に深く沈む静かな深い哀しみを私の前に浮き彫りにしたのです。怒りでも恨みでも復讐心でもない、かといって悲嘆にくれ絶望に沈んでいるわけでもない、物静かな諦念に包まれた冷静な今。ありのままの「今」を受け入れながらも受け入れきれない「今」がそこにはありました。過去の戦争で「今」があるにもかかわらず「今」のままを未来に繋げてよいものかどうか逡巡する様子に思えたのです。

私はなぜこの世に生きているのかを「永遠のいのちを繋ぐため」と語ってきました。また「いのち」と「命」を使い分けてもきました。「命」とは生と伴に活動する体と心のはたらき、仏教で言う「色心」のことです。「命」は「生」によって無から有となり「死」よって有から無に還ります。私の「命」はこの循環のなかの「個」のひとつとして「いのち」を永遠に繋ぐためにこの世に「生」を受けたと考えます。では、「いのち」とはなんのことでしょうか。私が「いのち」と表記するとき、それは生きとし生けるもの全ての、肉体も記憶も文化も精神も道徳も善行も悪行もありとあらゆる永遠の過去から受け継いだ、宇宙の営み、ありのままの世界のことです。それはお釈迦様によって示された「空」、仏の「法」です。私の「命」は永遠の未来へと仏の法(いのち)を繋ぐ者の一個であることで与えられた「生」です。生きることは「いのち」を繋ぐことです。ほとけの「法」と一つになることです。色即是空、空即是色とはまさにこのことです。

ベトナム旅行中のガイドさんの故郷、フエでの戦争の出来事を語る彼にとり、繋ぐべき永遠のいのちとは何であるのか。今彼が観る過去の戦争は、彼が安らぎの所へと歩むためのよすがとなるのでしょうか。私がベトナムやカンボジアを旅行して、彼らがポルポト、米軍、ベトコンについて語るとき、わずかながら受け取ることのできる感情は、不思議と憎悪や怒り、恨みではないのです。あえて言葉にすれば「諦念」と言うものかも知れません。諦念は断念することと誤解されがちですがそれは誤りです。「諦める」はここにある今を「明らかに観る」、ありのままに観ると言うことです。諦念の示すところは、ありのままに今を観て受け入れそのままに行動すると言うことです。過去を見れば怒りや恨みの感情を抑えることはできないでしょう。過去の「因」が今の「果」であれば、今の「果」は未来の「果」のための「因」です。彼らは未来を観るからこそ過去の「果」を今の「因」として「諦念」しているのでしょうか。日本人が引き起こした戦争が終わって80年。私たちは今までどのように戦争のいのちを繋いできたのでしょうか。そのいのちは戦争の加害者も犠牲者も伴に永遠のいのちとして私たちが引受けていると言うことを忘れてはならないでしょう。もし気候が人を作るなら亜熱帯と化した日本はベトナム人と同じような諦念を持つことができるのでしょうか。